

JASE

# 現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2025 年

No. 167

2025年2月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE  
ASSOCIATION  
FOR SEX EDUCATION

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-3富山房ビル5階 Tel.03-5801-6788 Mail info\_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 小澤洋美  
© JASE. 2025 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

SEE性教育アカデミー 2024・報告…………… 1	多様な性のゆくえ④…………… 8
"めぐみ"を生きる①…………… 6	今月のブックガイド…………… 9
わたしたちの性教育アクション③…………… 7	JASEインフォメーション…………… 10

## ◎ SEE 性教育アカデミー 2024・報告

# 性教育や支援のための SAR プログラム 子どもの性の安全・安心を高めるために支援者ができること

### はじめに

SEE (Sexuality Education & Empowerment) は、概ね年2回のペースでSEE性教育アカデミー(協賛:日本性教育協会)を開催している。From What to Learn to How to Learn(何を学ぶかから、どう学ぶかへ)をモットーに、受講者との対話を重視したプログラムを展開している。講義内容に関する質疑応答だけでなく、ディスカッションや「ふりかえり」の時間を十分にとり、講師と参加者が共に学ぶスタイルをとっている。

これまでSEEでは、諸外国の代表的な研修内容を紹介しながら、さまざまセミナーを行ってきた。

2024年11月17日「子どもの性の安全・安心を高めるために支援者ができること」をテーマに行われたSARプログラムのセミナーもその一つである。「性教育や支援のためのSARプログラム」のセミナーは、今回が3度目になる。

1回目は2022年2月27日(日)に「みんなで考えよう 私たちのSARプログラム」をテーマに行わ



れている。同じ年の秋、11月5日(土)には「性と対人関係について語る安全な場づくり～SARにつなげるネットワーキングスキル～」をテーマに、大阪公立大学I-site なんばで開催されてきた。いずれもセミナー時間は約6時間のワークショップ形式の研修であった。

### 講義：SAR プログラムと諸外国の実例

2024年11月17日(日)に開催された今回のセミナーは、まず東優子氏(SEE共同代表・大阪公立大学教授)から、「SAR：性に対する態度をみなおす・再評価する・再構築する研修について」の講義がなさ



価値観や態度と対立したときに、どのように考え、価値観の違いによって起こるさまざまな対立があることを事前に考えておく必要がある。性を扱う専門職にも「価値観」の振り返りと脱構築と再構築が求められるのは、性教育へのアプローチの変化ともかかわっている。価値観や道徳観を教え込むのではなく、価値ニュートラルな態度を養うことが求められる、と語った。

講義の区切りで、野坂祐子氏（SEE 性教育アカデミー共同代表・大阪大学大学院教授）の司会進行で、4～5人1組のグループに分かれ、自己紹介と講義への感想や意見交換が10分ほど行われた。その後グループの代表による質問や感想が語られた。

東氏から質問・感想への返答があり、引き続いてニュージーランド政府作成の性教育の動画、オーストラリアのカーティン大学大学院の SAR プログラムのビデオ上映ほか、諸外国の SAR プログラムや東氏自身が参加した SAR プログラムセミナーの内容の紹介などが行われた。

### グループワーク「私が受けた性教育」

午後からはワーク形式の学習に移った。安全な場で対話を行うため、グループワーク開始前にグラウンドルールの説明（個人的な情報は研修の外に持ち出さない、他の人の発言には耳を傾けましょう、お互いの意見は尊重しましょう、時間を守りましょう）があった。

吉田博美氏（SEE 事務局長・駒澤大学学生相談室カウンセラー・臨床心理士）をファシリテーターに、小グループに分かれ、「私が受けた性教育」をテーマにした話し合いを行った。

このグループワークには、次のような事後感想が寄せられている。

- 「日本の性教育は…」、という大きな主語で語られることはこれまでもあったが、「私が受けた（受けたかった）性教育」という切り口で話を聴き合う機会は（あるようで）少なかった気がした。自身の経験からの価値観を振り返ることができた。
- グループトークをすることで、性教育にふれるきっかけに個人差があり、今日、こうして、性教育に関心を持って参加している人が持つ特権を考えさせられた。特権に気づいてる私たちが、何とかしないとという気持ちにさえた。



「セクシュアリティ一問一答サークル」のグループワーク

- 何度も何度も振り返るごとに思い出すことが増えていくので、一度ならず何度もこういった機会を自分に設けていきたいと感じました。
- 子どもの頃は年代的に性教育がなんとなくタブーな感じでしたので、もっと学んでおきたかったことはありました。

午前の東氏の講義を踏まえた話し合いは、参加者に少なからずさまざまな思いを与えたようで、次のグループワークにその成果が如実に現れた。

### セクシュアリティ一問一答サークル

休憩を挟んで、同じく吉田氏の進行で、「セクシュアリティ一問一答サークル」をテーマにしたグループワークが行われた。

最初に、次のようなワークシートが参加者全員に配布された。

#### 「セクシュアリティ」一問一答サークル ワークシート

- 1 いま私が感じているのは
- 2 私の家で、性の話は
- 3 もし誰かがセクハラを受けていると知ったら私は
- 4 交際中にふたりで盛り上がって性的な写真をとることは
- 5 暴力が起きるのを防ぐのに人々がするべきことは
- 6 デートを安全にする方法の一つは
- 7 もし私が虐待的関係に陥ったとしたら、私がうち明けられるのは
- 8 誰が良いパートナーであるのかを決めるのは
- 9 思春期は
- 10 子どもに伝えたいソーシャルネットワークの使い方は
- 11 私が人間関係で大切にしていることは
- 12 今日、私が学んだことは

日常生活にある性にまつわる体験を振り返ることを目的に、12問のテーマについての話し合いを行った。小グループでは、それぞれの個人的な

幼少期や思春期、そして現在の体験、思い、価値観から幅広い意見が出された。事後感想からその多様な受けとめ方が見えてくる。

- グループのみなさんの考えを聞いて考え方が1つではないことを改めて実感しました。
- 他の質問項目でもやってみたかった。楽しい。人の話を聞くことで、自分のおもいこみに気が付けたり発見があった。
- 一問一答の方法で、自分の言葉による発信を繰り返すことで、自分自身が持つ関係性や価値観を自ら自覚し、自分の中の軸に気づくことができた。
- このような形のワークを初めて体験しましたが、皆さんが短い回答の中に印象的な表現をたくさん話されていて、様々な価値観と表現との出会いになりました。
- 自分の価値観や態度を振り返ることを可能にする質問になっており興味深かったです。参加者同士でちゃんと話してちゃんと聞くというルールがあることで安心して話せたように思いました。
- 設問が揺さぶられるものであった中、他の参加者の話を聞きながら自分の番の答えを考えていたような気もして頭がグチャグチャしてしまった。サークルで話す前に、自分との対話（内省）の時間があればよりよかったなと思った。5人グループだと後半話す人は「皆さんも仰っていたように……」と先に話した人の内容や価値観の影響を受けてしまっているなとも思ったので、3人の小グループでもいいのかとも思った。
- ぜひ、自分たちの研修会に取り入れたいです。

### 私にとってのセクシュアルコンパッションとは

そのあと、全体のサークル（円座）になり、小グループで話し合ったことなどをもとに「私にとってのセクシュアルコンパッションとは」をテーマにした話し合いが行われた。

コンパッション（おもいやり）という言葉をどのように解釈するか、とまどい悩む場面も見られたが、さまざまな意見が出された。

このセクションでの参加者の事後感想を紹介する。

- 性のおもいやり？ のイメージが難しく感じた。対



「私にとってのセクシュアルコンパッションとは」の発表

セクシュアリティについて、思いやり？ 思いやりって相手がいるイメージで、セクシュアリティは、自分のものだし、自分に対しての思いやり？ とぐるぐるした。未だに、心に残っているが、結局答えのないものかとも思った。

- この内容は、自分にとっての課題だと思った。言葉になるようにならない。人の意見を聞いて、そうかもと思うけれどもはっきりしない。そんなプロセスも大事なんだろうと思う。
- 自分自身も含めて参加者みなさんの性に対する経験や価値観を聴ける貴重な時間だった。自分にとっての安心・安全ってどういうことなのかを改めて問い直すきっかけになった。

### おわりに

セミナー参加者の変化を肌で感じられる場面が多くあった。初めて顔を合わせるメンバーも多かったが、お互いの話を聞き、感想を共有するなかで、次第に表情がやわらいでいくのが印象的でもあった。

参加者の変化の様子が分かる事後感想と今回で3回SARセミナーに参加してきた筆者の感想を最後に記したい。

まず、参加者の感想から。

- 8～10年ほど前、学校で教員をしていた頃に「クラスに1人はLGBT当事者がいる」と言われ始めましたが、当時はまだ「(同じ割合で考えるのなら)職員室にも当事者がいるんじゃないか」という発想や声は上がってきませんでした。かくいう私自身も「自分がそうである」とは到底言い出せず、同僚教員の言動や反応（新たに考えたり配慮したりしないといけないうことが増える…というネガティブなニュ

アンスや不安を孕んでいた)に居心地の悪さを感じながら、「今の学校では安心して働けないかもしれない」という孤立感から教員として生きる道を諦めました。「もしもその頃に包括的性教育や教育者向けのSARプログラムが浸透していたら……」、「一緒に考えて闘える仲間関係を職場で作ることができていたら……」。今日のセミナーは、そんな「What if……」を妄想せずにはいられないぐらい深い内容で有意義な時間でした。学校現場を離れて地域教育の現場で今は活動していますが、これからは仲間作りもしながら「子どもから大人まで、安心して“多様な性”を生きられるまちづくり」を目指してみたいなと思いました。

- 他の参加者の方と対話しながら、自分自身とも対話するセミナーとなっており、とても面白かったですし、楽しかったです。自分自身の価値観がどのように形成されてきたのか、価値観は対人援助の現場でどのような影響をもたらしているのか、といったことを振り返るトレーニングの機会はとても大切だと思いました。この度は貴重な機会をありがとうございました。
- 迷わず申し込んで間違いなかったです。直に聴いて触れてみて感じて、それを自分なりの言葉で表現すること、さらにはそれを全て受け入れてもらえるという安心感……。私は子どもたちにこれを環境として整えたいのだ、と改めて確認することができました。ありがとうございました。
- 性への価値観を自己覚知する学びの場がないので、参加してとても良かったです。ワークショップをまた開催してほしいです。交流会があれば尚よかったです。

- 何度も繰り返し受けたいと思った。特に、現場が多く、日頃子どもと向き合っている活動なので、また時間があれば参加したいです。

寄せられた感想から、このSARプログラム、ワークショップという形式のセミナーに参加し、そこで話し合うことで、自分の価値観、固定観念が揺さぶられている様子が垣間見られた。筆者も参加者の多くが持ったであろう「自分の価値観、固定観念」の再構築の必要性を痛感した。

SEE性教育アカデミーのセミナーは、From What to Learn to How to Learn (何を学ぶかから、どう学ぶかへ)をモットーにしている。その中で、よく使われる言葉に、「脱構築」、「再構築」、「ニュートラル」がある。

「脱構築」は、フランスの哲学者ジャック・デリダ(1930～2004)が使った用語で、英語でデコンストラクション(deconstruction)。デリダの脱構築的な考え方は、ジェンダー学関連書の中で、社会に大きな影響を与えたと言われる『ジェンダー・トラブル』の著者であるアメリカの哲学者ジュディス・バトラーのバックグラウンドにあると伝えられている。

私たちが当たり前と考え使っている二項対立、例えば男と女、自分の価値観と他人の価値観といった既存の枠組みや体系を解体し、優劣や違いの判断をいったん保留し、新たに構築し直すことを意味する。つまり、一度「ニュートラル」状態を作り「再構築」する作業、それを行っているのがSEE性教育アカデミーのセミナーなのだということを、今回のセミナーに参加し再認識した。

参加者はスタッフを含めて23名であった。

(文責・斎田和男)

## JASE性教育・セクソロジーに関する資料室

### 資料室 について

JASE資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧予約】事前に電話で予約が必要 [tel 03-5801-6788]。貸出業務は行っていません。

【開室日・時間】月曜日～金曜日 11:00～17:00

【休室日】土曜日、日曜日、祝日、年末年始 ※この他、臨時に休室することがあります。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

### 資料室 利用方法



←資料  
検索

### 収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、セクソロジー、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、国内学術誌、国際(海外団体資料・海外学術誌)、高齢者・家族問題、官公庁資料、JASE刊行物、映像資料、絵本・写真集、ダイヤモンド文庫、団体資料・手引き・白書(都道府県資料、大学関連資料、官公庁資料など)ほか。 [https://opac.jp.net/Opac/search.htm?s=NS1JEYq24WsoCGy\\_N7GNQ\\_WQaeg](https://opac.jp.net/Opac/search.htm?s=NS1JEYq24WsoCGy_N7GNQ_WQaeg)